

令和4年度 第1回委員部会運営委員会（定例会）議事録（案）

日時：令和4年4月28日（水）午後2時～

会場：国分寺市本多公民館

出席者：国分寺市(田中)、国立市(野口・山根)、西東京市(西原)、福生市(渡部・三浦)

狛江市(内海)、東大和市(新井)、小金井市(嵯峨山)、小平市(鈴木)、昭島市(三木)
事務局（久保・榎）

記録：昭島市（三木）

1 開会

- ・国分寺市公民館課長あいさつ
- ・各市選出委員の自己紹介(氏名・利用する公民館名・好きな食べ物・初歌唱の歌謡曲・行ってみたい所)→開会前に記入したものを各自提示し発表

2 報告事項

- ・令和3年度申し送り事項→項目を読み上げ、確認

3 協議事項

- (1) 令和3年度都公連委員部会運営委員会第11回議事録説明→次回の定例会までに確認
- (2) 令和4年度活動方針(案)→承認
- (3) ①令和4年度委員部会運営委員会日程(案)→第7回以降の日程については、都公連研究大会の開催形式の方向性が未定のため、保留→承認
②議事録作成者(案)町田市の委員が4月現在未定のため、5月の議事録作成者を小平市にし、7月を町田市とする。→承認
- (4) 令和4年度委員部会第1回研修会について
 - ・9月に第1回委員部会研修会を開催したい。印象に残る有意義なものにしていくつもりである。
 - ・2月4日予定の第59回都公連研究大会の対面開催の有無により、状況にあわせて12月にワークショップ形式の方法も検討していく。
- (5) その他
 - ①「公民館に関する調査」について
 - ・当初、公民館長部会の中で作成されたものだったはずである。
 - ・今後は、毎年アップデートを定着させ、都公連全体で有効活用していけたら良い。
→コロナ禍の2年でネット環境等、各市のバラつきが顕著。人口や予算、職員体制等変更がある。ただ、今は年度始めで、職員の異動もあり、早急に作成する必要はない。6月の定例会で新規の資料を配布し、協議する方向で確認。(5月の定例会でタイトル・追加項目等を意見交換した上で、各市の担当職員に依頼する。)
 - ②情報交換
西東京市：田無公民館がリニューアルオープンした。施設内のレイアウトの変更や、バリアフリーの導入等、快適に利用できるようになった。公運審2年目に入った。本格的には、5月から始動。生活福祉課から、新公民館長就任。今後、館長と公運審との意思疎通をしっかりとっていかなければならない。

- 福生市： この2年、活動が思うようにいかなかった。長期間、書面開催や Zoom 会議であったが、久しぶりに4月は対面開催ができた。校長先生の退職があったが、2年目の公運審である。都公連は2名体制。コロナ前のような内容の濃い「公運審だより」にしていきたい。白梅分館・本館のまつり・ホテルまつり等、全て中止決定済み。松林分館は秋に開催予定なので試行錯誤をしながら、なんらかの形で開催したい。国分寺の5月予定のまつり開催への経緯や留意点を教えていただきたい。
- 狛江市： 4月12日に公運審を行った。委員長・副委員長が1年任期。「新しい生活様式における公民館事業のあり方」についての答申に向けて進めている。他市のように公民館だよりの充実を図っていくために、細谷委員と公民館側に意見しているところである。
- 東大和市： 5館のうち、3館の館長が異動。年8回の公運審も2回は中止。安全第一のため、リモート開催、祭り関係も積極的ではないのが現状である。5月12日に公運審開催予定。10年数年前から、公運審が中心となる5館合同の「夏休み遊空間」を計画中。保育室の開室が40年となり、保育付き講座の充実を図る。行政との関わりを熟考するため、公民館だけが腕まくりして活動するには至らない苦しさもある。
- 昭島市： 公民館だよりについては、自治会会員全戸配布を予定していたが、予算上実現していない。今後も公運審で全戸配布を粘り強く要望していく。公運審は毎月第2金曜夜に開催してきた。5月の建議書の意見具申を目指している。7月3日の40周年事業開催予定。公民館を知ってもらうための周知の仕方を模索中。会長市として昨年度のご協力に感謝。
- 小金井市： 毎月「月刊こうみんかん」を発行だが、自治会の回覧等にとどまっている。新しい仲間づくりをはじめ、高齢者学級を募集している。40人募集から20名の定員に変更。公民館まつりは、今年も実施の方向だが、昨年度はサークル活動の縮小も含め、残念な状況。自治会加盟率低迷、30%を切っているだろう。
- 小平市： 年4回、公民館だよりを発行。申し送りがなかったため、次回、持参したい。市報は全戸配布だが、公民館だよりは各公民館や、自治会等にとどまっている。
- 部会長： 自分の公民館の内容はわかるが、他の公民館の内容は不明確だったが、公運審が一つにまとまった。地域のよさを伸ばすため審議委員の人数などの割合等、国分寺市全体と考えていくと色々課題があるのが現状である。
- 国立市： シルバー学習室は、仲間作りを大事にして42年目である。公運審で提出した館長人事に対する要望書は、できるだけ尊重されている。今年度から博物館からの新館長が就任。毎年、館長人事の要望書は首長が代わることも考え、継続して提出していくことを議事録にも残していく。昨年度、市民やサークルに向けてアンケートをとり、集計中。アンケートを踏まえ、夏頃までに答申を作成していく。リーダーは20代~30代の若い世代が担っている。年配者が補佐し、若い人たちを育て、つないでいくことが大事である。毎回5名~8名の傍聴者がいるため非常に緊張感があり「傍聴ニュース」も自作しており、会議も10時頃まで延長されることが多い。

国分寺市：コロナ禍のため、昨年はおまつりではなく、発表会という名称にした。平成30年度と比較すると食べ物のサークル等も含め、40%程度の参加率になってしまっている。光公民館では、25年以上やっているPIKA☆ROCKが継続してユーチューブ配信し、次の世代へとつないでいる。もとまち公民館では、子育てセミナーの山口有紀子さんご本人が講座の受講生だったが、その後、資格をとり、講師の立場になって戻ってきている。学びの循環が行われているのは嬉しいことである。並木公民館では、まつりが全くゼロになってしまうと復活が難しいため、展示のグループ等、参加団体が少なく課題も残ったが、なんとか開催した。

部会長： 実行委員方式で、公民館自身が、「なんとかおまつりを継続しよう、やろうよ」と協力して動いてくれる。ただ、事故等が起きないように市民側が細心の注意を払っていくことは今後も必要である。なんとか形を作っていき、継続することを大事にしていきたい。毎月15日号は、「けやきの樹」を全戸配布している。

小金井市：日野市の「出前公民観」はどうだったのかを知りたい。

→天候が心配されていたし、定員のしほりもあったが一定の成果はあった。今後、公民館から出ていく、アウトリーチの継続性も必要である事例である。

東大和市：国分寺は公民館が5館あるが、本多公民館にした理由は？

→駅からの距離、他の公民館より坂が無く、大会議室もとり易いため。

次回は5月26日(木)午後2時～本多公民館

事務局より：A3の「公民館に関する調査」について→新たに入れた方が良い項目が事前にわかったら事務局に連絡をしてほしい。

以上